

日本労協連総会へのメッセージ

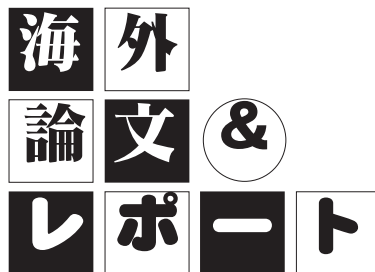


イヴァノ・バルベリーニ

(ICA会長)

2003年6月7日

通訳 玄幡真美 (日本労協連)



菅野理事長、紳士淑女、友人の皆さん、

私は皆さん方からのご親切な総会への招待を受け、日本労働者協同組合連合会の総会に出席出来ることをたいへんうれしく思っています。そして、ICAを代表して総会の成功と皆さん方の活動の成功をお祈り申し上げます。

ICAは、労働者協同組合運動を発展させ、協同組合原則を実行されている皆さん方の活動を強く援助することをお約束いたします。私はまた、皆さん方がICAを支援して下さいることに感謝を申し上げます。

ICAは、その機構を再検討する重要な時期にきています。それは組合員の要求に応じ使命を果たすことをねらいとするものですし、協同組合運動の未来の発展を行うものです。

2002年は多忙な年で、それはICAを再構築する目的と方法の見直しを行うものでした。昨年、またILO193号勧告のなさ

れた年で、それは協同組合促進することを目的とするものでした。この勧告は、先進国と発展途上国の両方における協同組合の役割と発展にとって、非常に重要な役割を果たすものです。

私は、ILOが重要な勧告をだされたことに非常に感謝しています。ICAは、国際的な諸団体に強い関係を持っているというよい評判があります。そして、ICAは協同組合運動促進のため好ましい環境を創るよう貢献するものです。

世界の協同組合

今日、8億人が協同組合のメンバーとなっており、1億人がそこで雇用されています。

協同組合は、90年代飛躍的な発展を遂げました。それは、世界中での大変重要な変化と、注目すべきものがありました。例えば、EUの協同組合銀行、イタリアの社会的協同組合の発展、ブラジルでは過去の90年間よりもこの10年間で約6倍の協同組

合が創られています。

また、中央・東ヨーロッパで、協同組合は10カ国中5カ国で障害者の主要な雇用の場となっていますが、他の企業と同様競争にみまわれています。

協同組合発展の条件

協同組合事業は良好な環境でのみ成功することができます。最近、ICAやILOのような国際組織の支援を受けて、独立し自主的な組合員所有の企業として協同組合の地位を明確にするような協同組合法が各国で採択されつつあります。

国連は協同組合を雇用の創出、貧困の克服、社会的統合の達成、効果的に資源を活用する重要な機関と見なしています。

ILO勧告は、政府が協同組合支援の枠組みを提供する必要性を認識していますが、同時にICAが自身の価値と原則をもつ自治的組織であることも認めています。

協同組合の新しい世代—社会的協同組合

よい協同組合は様々な分野で、重要な役割を果たしています。

多くの国々で、人々にケアサービスを提供する新しい労働者所有協同組合の積極的な事例が出てきています。

その使命は組合員に仕事を公正な賃金で提供し、人々にはそのニーズに応じて質の高いケアを提供することです。この分野お

いて、イタリアでは、幅広い経験が蓄積されてきており、社会的協同組合の発展はその興味深いケーススタディーといえましょう。

社会的協同組合は補助・支援に関連する健康、教育セクタや障害者のための商品やサービスを生産するというように、多様な分野やセクタで運営されています。

20年前、この運動はほとんどゼロから出発しました。が2000年の初めには社会的協同組合は合計5,600の事業所、156,900人を雇用しています。その内14,900人が障害者です。こうした動きは、特別な法律をつくる前から始まりました。協同労働を通じた労働者自身の尊厳と自覚を反映して、困難な社会環境の中でもこうした企業には想像性と寛容性があります。

しかし、社会的協同組合の主要な発展は、アイデンティティと役割を定義した91年の社会的協同組合法に端を発しています。社会的協同組合法は特別法で、協同組合の一般法と関連しています。この法は、12年間実施され今日もまだ適用されています。

この協同組合の年収入は、新しいサービス、統合されたサービスのネットワーク、また情報技術分野の発展のために投資されています。が、最大の投資は、労働者とマネージャーの訓練に当てています。

社会的協同組合は地域でコンソーシアムを創り、様々な状況のなかでイニシアティブを発揮し、革新的な実践をしています。また、いくつかの地域を越えたネットワー

クの役割も引き受けています。

私たちが直面していることは、どのようにしたら、政府に有益で革新のためのニーズに応えるような法律を各国で制定させることができるかということです。

イタリアは小規模な協同組合企業に関する法律でも、興味深い事例といえます。法律では最低9人ですが、3人からでも企業を立ち上げることができ、大変シンプルな定款で運営することができます。また、非常に低い資金でサービスや、介護支援の協同組合の経営を認めるもので、近年イタリアの多数の協同組合は、この種のタイプで創られています。

最後に、協同組合は貧困を無くす運動への参加を広げなければなりません。これは、全世界で最優先しなければならない課題です。この分野で、協同組合は既に多くを実践しています。が、高い目的を達成する新しい方法を模索し、私たちのイニシアティブをより明白にしなければなりません。

協同組合が、こうしたすべての問題を解決することはできません。しかし、解決の一助となる必要があります。

既存の協同組合は貧困者のニーズに見合うように拡大し、強化されるべきです。彼らがメンバーになりたいとき、そして新しい協同組合が貧困者自身のニーズを満たすように創られるべきです。

世界中の協同組合運動は、明確な戦略と、ICAの第6原則にある“協同組合間協同”に基づく参加によって、このプロセスを援

助しなければならないでしょう。

私たちは、強い協同組合運動を発展させる機会に遭遇しています。なぜなら、近代社会は私たちのエネルギーと経験、規則を必要としているからです。ICAは労働者協同組合運動を強く支援します。皆さん方の事業の成功を切にお祈り申し上げます。